

外来魚は意外にグルメ！？ 神上沼における外来魚の食性

○久岡知輝^{1,2}、佐竹祐亮^{1,3}、北野大輔^{1,3}

1：滋賀県大生き物研究会、2：滋賀県大・環境、3：滋賀県大院・環境

滋賀県大生き物研究会（旧滋賀県大 BASSER'S）は、彦根市に位置する内湖「神上沼」をフィールドとして、外来魚の駆除および在来魚のモニタリング活動を月1回以上の頻度で6年間行ってきた。本発表では、神上沼に生息するオオクチバスの食性について報告するとともに、オオクチバスの餌選択性について検証した。

2011年4月から2016年12月にかけて、神上沼で捕獲したオオクチバス（*Micropterus salmoides*）を解剖し、肉眼による胃内容物の種判別を行いその重量を計測した。その結果をもとに、各餌生物の重要度を示す指標として用いられる餌料重要度指数（IRI）を算出した。その結果、標準体長230mm以下の小型のオオクチバスはスジエビなどの甲殻類を捕食していた。一方で、より大型のオオクチバスは、ホンモロコやフナなど琵琶湖の水産業上重要な種を多く捕食していた（Fig.1）。春季において、ホンモロコは琵琶湖本湖から産卵のため神上沼に遡上してくると考えられるが、同じ時期に出現する大型のオオクチバスに多く捕食されており、種の個体数に大きく影響していることが示唆された。

次に、オオクチバスに捕食されていた種が神上沼に多く生息しているため捕食されたのか、選択的に捕食したのかを検証するため、Ivlevの選択度指数を算出し選好度を評価した。オオクチバスがランダムに餌を捕食していた場合、Ivlevの選択度指数は0となる。一方で、その捕食に選好性がみられる場合には、選択度指数は正の値となる。指数を算出した結果、春季におけるホンモロコの選択度指数は0.26となった（Fig.2）。一方で、年間を通して神上沼に出現するオイカワやモツゴの選択度指数はほぼ負の値を示した。よって、大型のオオクチバスは春季に出現するホンモロコを選択的に捕食していることがわかった。

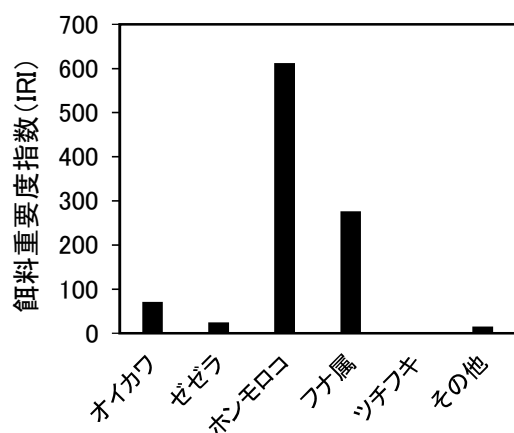


Fig.1. 春季の大型オオクチバスにおける餌料重要度指数（IRI）

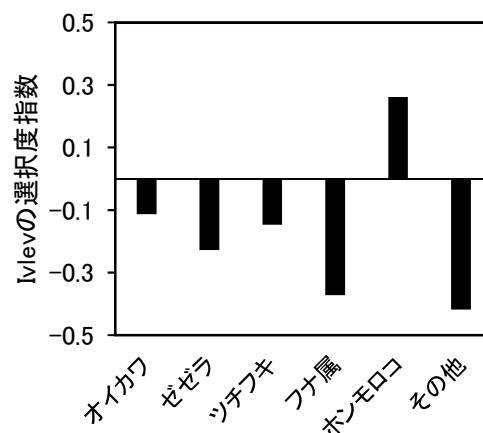


Fig.2. 春季の大型オオクチバスにおけるIvlevの選択度指数